作州路

Vol. 25
2022/3

「出雲街道宿場考」の取材で勝央町植月地区「鳥羽野（とばの）」「高根（たかね）」を訪れた。

現在では「出雲街道」と一括りにされるが、この地は、古くは「因幡往還」や「播磨往還」など様々な古道が縦横に交わる、重要な《辻》として作州地域の往来の要であったようである。

取材した「道しるべ」に刻まれた地名などを見ても、この地には大変な賑わいがあり、「美作国」の要衝として、土地を治める豪族たちが巨大な屋敷を構えていたであろうことが窺える。

―文化の薫る活力ある地域づくりをめざして―　財団では、このような事業を行っています。

普及啓発事業

1. 財団ニュース「作州路」25 号の発行

2. 普及講座の開催

「石に描こう、石を描こう。」
【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】
講　師／安藤しほり、髙山明子
期　日／令和４年２月 12 日（土）
会　場／勝央美術文学館

「石に描こう、石を描こう。」講師作品

3. 事業協賛に伴うＰＲ活動

「金時祭花火大会」への協賛
【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】

芸術文化活動事業

【主催事業】
■公募展の開催
○第 18 回ミマサカコドモ絵画展
会　期／令和 4 年 1 月 6 日
～令和 4 年 1 月 30 日
会　場／勝央美術文学館
展示室・町民ギャラリー 1

「ミマサカコドモ絵画展」会場風景

■作品展の開催
○gallery exhibition vol.34
安藤しほり・幾田奈菜・
髙山明子・森岡紗也　作品展
会　期／令和４年 2 月 12 日
～令和 4 年 3 月 13 日
会　場／勝央美術文学館
町民ギャラリー 1

「gallery exhibition vol.34
安藤しほり・幾田奈菜・
髙山明子・森岡紗也　作品展」
会場風景

■講演会の開催
○舞の海秀平講演会
「私の相撲人生 –夢は必ずかなう」
と　き／令和３年８月８日
会　場／勝央文化ホール

【共催事業】
■企画展の開催
《文学》
○小企画 40
「木村毅とオリンピック」〈第１期〉〈第２期〉
《美術》
○コレクション展 vol.43
郷土の画家シリーズ「火星燃ゆ」
〈第１期〉〈第２期〉

【助成事業】
芸術文化活動助成
○勝央金時太鼓保存会活動
○勝央町文化協会活動事業

【後援事業】
○岡山交響楽団演奏会
～岡山県郷土文化財団
クラシックコンサート勝央公演～
○司馬遼太郎「燃えよ剣」
～土方歳三に愛された女、お雪～
○Buzz Five コンサート
○勝央金時太鼓保存会結成 35 周年記念
コンサート「鼓響祭　風の宴」
○JAZZ FOR THE YOUNG GENERATION

文化財資料収集保存事業

その他の事業

・学術的研究及び図書の発刊事業への
助成事業を継続しておこなっております。

地域の文化活動を応援します！

地域芸術文化振興のための助成活動を実施しております。詳しい内容は、財団事務局へお尋ねください。

当財団への皆様の貴重なご寄付をお待ちしております！

当財団への皆様のご寄付は、地域文化事業の実施に役立てられています。
ご寄付をいただいた皆様は、税額控除をうけることが出来ます。

表紙について【「道しるべ」と「後南朝」】

本文連載「出雲街道宿場考」に登場する勝央町植月地区「高根（たかね）」の地から北の高台に登ると、南には、眼下に間山（はしたやま）や英田地域の風景が一望出来、北には日本原に通じる《古道》の先に、雪を被った那岐の霊峰を仰ぎ見ることが出来ます。その昔、やんごとなき方々が流浪の末、安住の地としてこの素晴らしい眺望の地を選ばれたのではないか と思わせる風情が、確かにこの地にはあるようです。

編集後記

今回の連載「出雲街道宿場考」は、満を持し、歴史家で勝央町文化財保護委員会委員長の赤木 耕三 氏に《後南朝》にまつわる文章をご寄稿いただきました。《後南朝》については、当地の歴史秘話として長く伝えられてきました。そこに、新たな《古道》の「道しるべ」や貞和３年に遡る《宝塔》が「物証」として発見されました。まさに歴史が動き出し、新たな物語が私たちの目の前に広がり始めたようです。歴史ファンにとっては、いよいよ楽しみな展開。さらなる発見に期待も高まります。（E.N）

公益財団法人　美作学術文化振興財団
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田207-4　Tel. 0868-38-0270 ／ Fax. 0868-38-0260

発行日：2022 年 3 月 31 日
編集・発行：公益財団法人美作学術文化振興財団
印刷：（株）廣陽本社

秘史　後南朝　植月北方の里を訪ねて

赤木耕三（勝央町文化財保護委員会 委員長）

はじめに

戦国期三星城主　後藤氏が崇拝を篤くしたと伝わる現美作市明見の八幡神社西側には因幡・備前往来筋が今もあり、ここから少し北の明見の端に着くと明和７年石造の道しるべがある。

道しるべは南から北上する人々に対して枝分れする道の行先を示し、「左　間山・うへ月（植月）」とある。これより古道を植月に向って行くと出雲街道に出て、江戸期は宿場街だった勝間田に入る。

私は、姫新線勝間田駅に降り立った旅人になったつもりで約４キロメートル先の植月の里を目指し出発した。出雲屺を過ぎ小高い台地に上がると勝央町の景色は驚くほど一変した。

早春の足もとには菜の花が咲き遥か中国山脈の巨峰 那岐山牛の背には雪が眩しく輝いていた。

秘史後南朝の中心地　植月北方（鳥羽野・高根）がパノラマとして広がる、この風景に一瞬息をのむ、なんとも言えない感動を憶える。

もし「秘史伝承の風景遺産」というテーマがあるならば、正にここだと言って過言ではない。そこは、まほろばの植月郷でした。

早春の植月北方の風景

（一）　植月北方（鳥羽野・高根）を歩く

◎鳥羽野の石造道しるべ新発見

植月鳥羽野の道しるべ

万福寺観音堂南方字新町に、一平蔵なる人が建てたとする道しるべを発見した。石には「せき本」「一の三や」「やたい」「つやま」の文字が彫られ古道図と合致する。植月郷の交叉点がこの付近にあったことが証明されることになる。

◎高根を語る神様仏様

「高仁」の文字が刻まれた手水鉢

むかしは字名高仁だったとする高根では、高仁村だったと判る手水鉢も確認した。

集落を徹底して調査した中で、主な成果を次に説明する。

○如意輪観音堂と石仏

如意輪観音ご尊体

小字観音屋敷 353 番地は如意輪観音堂があった場所として特定できた。

戦後、自称後南朝皇統の天皇であると発表した名光寺正真がこの地から自宅にもちかえり祀っていた如意輪観音像の写真も入手した。

いうまでもない如意輪観音は南朝方や後醍醐天皇が勅願としている仏様である。

○保存されていた３枚の棟札

名光寺正真を叔父とする滝本（酒本）佐保子さん 90 才は自宅に如意輪観音堂の棟札を大切に保管されている。

宝永６年の棟札には津山藩 森藩主に任命された大庄屋　石原甚右衛門と豊岡利左衛門の名等が見える、加えて観音様については、「恵心僧都造立　御長八寸　如意輪観音也」と書かれている。

○王子権現宮（豊受神社）の史伝と棟札

創建を治暦４年とする豊受神社であるが、植月後南朝初代　高福天皇の御霊を権現様として御神像を造り祀った史伝がある。

この御神体を補色した塗師　曽井邑　光石の安政３年棟札を確認した。（高福天皇御陵は大庄屋豊岡家敷地内に伝わる）

（二）　貞和３年造　宝塔　の発見

昭和 25 年高根では銅鐸が発見されロマン溢れる地でありますが、述べてきた 如意輪観音堂 地内で宝塔を新発見した。

観音開きが彫られ右に「貞和三丁亥天」左に「願主 万門」とある。後醍醐天皇崩御後８年のものであり前方には、四国 73 番出釈迦寺、弘法大師の石造、大日如来も祀られている。

取材中に「宝塔」を説明する赤木氏

「宝塔」図解

ここから読みとれる事が多方面に多くあるが、このたびは省略する。

まとめ

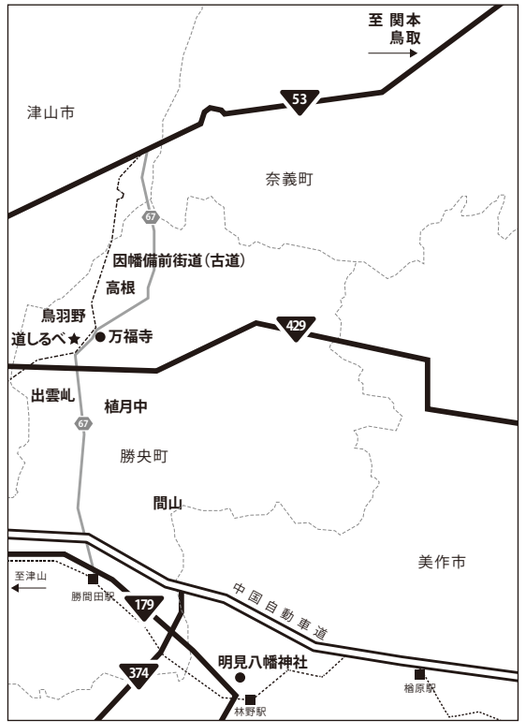
秘史植月後南朝というとんでもないことに私ごときが挑戦し現地から見たありのまゝを述べてきましたが恐れを知らず、私に勇気を与えて下さったのは植月地区役員の依頼によることに始まります。

確に秘史は、このたびの歩みでその影や幻のようなものを深く心に感じました。

これを機会に、今後更にどなたか紐ときをされることを願って終りと致します。協力して下さった皆様に感謝々々です。

慈愛の心

自分は後南朝皇統の天皇であると発表した名光寺正真を叔父にもつ滝本（酒本）佐保子さん（９０才）を訪ねた。「あなたは吉野に行かれましたか？」と逆に質問された。あれから２年、今はお互いすべて語れる仲になった。現天皇を含め皇統に慈愛をもった人が高根に居た。私の調べは、この人が居なかったら今の満足は得られておりませんでした。



本文関係古道・史跡地図

■参考文献
『植月御所の真相』／田中千秋
『正さねばならぬ美作の歴史』／田中千秋
『美作天皇記』／原 三正
『岡山県史（中世１・編年資料）』
『美作町史（通史・地区誌編）』
『東作誌』／正木兵馬
『美作後南朝その史実と伝承（巻一）』（非売品）／黒瀬均二
『日本国皇統の説明（巻二）糸図付』（非売品）／黒瀬均二
『風塵録』（非売品）／黒瀬均二
『近在市町村文化財調査誌』
『勝田郡誌』
『美作の大庄屋』
／美作の歴史を知る会･ふるさと歴史見学会
『新訂　美作略史』／津山市教育委員会
『新釈　美作太平記』／三好基之

■協力者（敬称略）
酒本佐保子（現　滝本姓）
酒本武都生